

「暖冬により麦の生育早まる傾向」 越冬後の生育量確保に向け排水対策の徹底と追肥の実施

令和6年2月28日
新潟農業普及指導センター

- ◎排水溝を点検、補修し、ほ場内停滞水の排水に努める。
- ◎3月上旬をめぐりに、消雪後追肥を実施する。
- ◎雑草の発生が多い場合は除草剤を散布する。

1 生育状況

- ・10月に降雨日が多く、播種日が近年に比べ遅れたことから、越冬前の生育は平年並～やや不良であった。
- ・例年に比べ降雪量が少なく、麦類のほ場での雪消えも早かった。冬期間の気温も高く推移しており、さらに、3月の気温は高い確率が40%と予報されていることから、越冬後の麦の生育は早まる見込み。

2 排水対策

・麦の湿害の発生要因

- ①融雪水の停滞により、土中の空気の流れが遮断され、土中酸素濃度が低下する。
↓
- ②春以降、地温の上昇により土中微生物の活動が活発化し、土中の酸素を消費することで、酸素濃度がより低下する。
↓
- ③麦の根の呼吸が妨げられ、活性が低下し、結果的に株全体の生長が衰える。

◎排水路の点検、補修

- ・排水口の詰まりはないか
- ・明渠と排水口がつながっているか
- ・明渠が崩れて埋まっていないか
- ・勾配が不十分で水が停滞していないか
- ・ほ場内排水溝は周囲明渠とつながっているか

3 越冬後追肥（消雪後追肥、茎立期追肥）

(1) 消雪後追肥（表1参照）

- ・ 平均気温が4～5℃以上にならないと追肥の効果は現れない。

表1 アメダス地点別の平均気温（平年値）が4℃または5℃を超える日

アメダス地点	平均気温が4℃を超える日	平均気温が5℃を超える日
松浜	2月24日	3月7日
新潟	2月26日	3月7日
新津	3月8日	3月16日

- ・施用量は窒素、カリの成分量で2～3kg/10aとし、リン酸の追肥は不要。

(2) 茎立期追肥

- ・ 茎立期追肥は、*止葉抽出期追肥を確実にできるよう、生育量、葉色を判断して行う。
- ・ 茎立期は全主茎の40～50%の稈長が2cmとなった時期。管内の平年は3月25日頃。
- ・ 大麦、小麦とも表2を参考に、生育量、葉色に合わせて加減する。特に、大麦では過剰の窒素を追肥すると白色未熟粒の発生が多くなるので注意する。

注) *止葉抽出期以降の追肥については、3月下旬発行予定の麦類技術情報 No. 3 を参考にしてください。

表2 茎立期追肥のめやす

茎数 (本/m ²)	葉色 (SPAD 値)	追肥量 (10a 当り窒素分量)
600本未満	42未満	2kg
	42以上	1～2kg
600本以上	42未満	1～2kg
	42以上	追肥は実施しない

4 越冬後の除草

- ・ 3月の気温はやや高めと予報され、ほ場により雑草の生育が旺盛となることが懸念される。
- ・ 本県の転換畑に発生する雑草は、スズメノテッポウ、スズメノカタビラ、タネツケバナなどである。これらの雑草は、越冬後に生育が旺盛となる。麦と養分競合を起こすため、多発生すると雑草害による減収をもたらす。また、麦角病の発生要因にもなるため、雑草防除を徹底する。
- ・ スズメノカタビラは、生育期処理除草剤の効果が劣るので、播種直後の土壌処理剤で確実に防除しておく必要がある。